

編集後記

昨年より引き続きコロナ禍の中、本年も無事に『川崎大師教学研究所紀要』を発刊することができました。本紀要も今回で第六号となります。社会の様々なところで通常通りの活動が難しい中、川崎大師教学研究所の活動が継続できていることに対して、関係各位に深く御礼申し上げます。

今回の紀要には福田亮成先生（本研究所相談役）の論文を始めとして、研究所教授・研究員の論文の他、外部よりの投稿も頂いております。

伊集院・加納・倉西・サントの四先生の論攷が取り扱う『サマーヨーガタントラ』は、後期密教の発展に関して重要な役割を果たした経典であり、金剛頂経広本十八会の第九会「一切仏集会拏吉尼戒網瑜伽」に相当し、真言宗における重要経典である『理趣経』と密接な関係を有する経典です。近年そのサンスクリット語原典写本の存在が確認されましたが、本論文はその原典写本にもとづく基礎的な研究であります。

房（Bang）先生の論攷は、後期インド密教の重要経典である『ラグサンヴァラタントラ』に対する、バヴァパッタの註釈の校訂テキスト並びに英訳註です。バヴァパッタはヴィクラマシーラ僧院で活躍した学僧で、後期インド密教

経典に対する註釈を著した人物であります。

伊集院先生の論攷は、ヨーガタントラ（金剛頂経系密教）の大学匠であるアーナンダガルバの『ヴァジラジヴァーローダヤー』のサンスクリット語校訂テキストであります。『ヴァジラジヴァーローダヤー』は『サマーヨーガタントラ』を典拠とした観想次第であり、中期から後期にかけてのインド密教の実践理解のための重要なテキストであります。

このように本年度も南アジアから東アジアに展開した密教関係の基礎的な資料となる論文を多数掲載することができました。今後とも質の高い論文を提供することを目指していきたく存じます。皆さまのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。（種村隆元 記）

令和三年三月二十一日発行

川崎大師教学研究所 紀要（第6号）

発行 川崎大師教学研究所

発行者 廣 澤 隆 之

編集者 佐 藤 隆 一

〒二一〇〇八一二 神奈川県

川崎市川崎区東門前一〇九九

電話（〇四四）二九九一五一一

制作 図書出版（株）ノンブル社